

AGU NEWS No. 31

青山学院大学

AGUニュース第31号
[2006年4月～5月号]

青山学院大学・広報入試センター広報課
〒150-8366 東京都渋谷区渋谷4-4-25
TEL.03-3409-8111(代表)
URL. <http://www.aoyama.ac.jp/agunews/>



青山キャンパス

特集  AOYAMA
GAKUIN
UNIVERSITY

さらに進化&深化する 青山学院大学の国際交流

私たちの国際交流体験～協定校留学経験者に訊く～
学部・学科独自の海外研修制度について

AGU TOPIC

青学体育会「私たちの4年間と後輩へのメッセージ」

TOPICS

北里大学医学部と本学理工学部の学術交流協定
大学・高等部共催 学内公開フォーラム開催報告
2005年度の進路・就職支援状況について

報告・お知らせ

アドバイザー・グループに入ろう!
2006年度学年初頭行事一覧

誌上公開講座

テーマ別科目 言葉の技能
「日本語B」

INFORMATION

2006年度 入学試験志願者数
2006年度オープンキャンパス等開催日程



THE ROUND-TABLE TALK

PART

1

PART

2

THE ROUND-TABLE TALK



special feature

さらに**進化&深化**する 青山学院大学の国際交流

副学長(学務・学生担当) **仙波 憲一**



青山学院大学は伝統的に国際交流を大切にしてきた大学であり、多くの方が本学の教育・研究活動に“国際性”を期待されていると思います。

現在、本学では海外の学生や研究者等を積極的に本学に招き、キャンパスに居ながらにして、海外の人々と交流し、異文化を知ることができる環境整備を推進しています。たとえば、本学には世界各国から集まった200名以上の留学生が学んでおり、国際交流センターが中心となって、一般学生と留学生が交流するさまざまな

機会を設けています。また、年間を通して各学部で海外から招いた第一線の研究者によるセミナー・講義を開講。2003年からは世界各国の在日大使の方々を講師としてお招きする「各国大使講演シリーズ」を開催し、各国事情や外交の今を知ることができる貴重な機会を提供しています。

また、体育会各部との連携のもと、スポーツを通じた国際交流も全面的にバックアップしており、近年ではジンバブエ、アメリカ(野球)、韓国(バスケットボール)、カナダ(バレーボール)といったスポーツ交

流が実現しています。

もちろん、留学・海外研修の充実も、国際交流」の大きな柱です。留学先となる協定校も、年々充実が図られており、近年は特にアジア地域の大学との協定締結が急ピッチで進んでいます。アジア諸国と日本のパートナーシップが叫ばれる国際情勢の中、本学学生のアジア諸国への関心も年々高まっており、外国語として中国語やハングルを履修する学生も急増しています。

留学や海外研修に対しても単に語学修得に留まらず、人、文化、政治・経済など、海外での体験を通して、その国・地域社会全体について学びたいという学生が増えており、私たちはそうした意欲的な学生の要望に応え、海外で深い学びの体験を提供できるよう、つねに新しい国際交流のカタチを模索していきたいと考えています。

では、学生たちはどのように本学の国際交流を捉えているのか……協定校留学経験者の3名に話を聞いてみました。

私たちの国際交流体験

～協定校留学経験者に訊く～

●司会

仙波 憲一 副学長

●出席者

アメリカ・ワシントン大学帰国生

天野 美帆 さん(文学部英米文学科4年)

タイ・タマサート大学帰国生

川口 研太 君(文学部英米文学科4年)

北京外国語大学受入れ留学生

張 舒鵬(チョウ・ジョホウ) 君

留学の動機は 十人十色？

仙波 川口君と天野さんは、タマサート大学、ワシントン大学の協定校留学で、それぞれ世界各国の学生と机を並べて学ぶ体験をしましたね。

川口 さまざまな国の人と、英語を通じてコミュニケーションできたことは、うれしかったし、それ自身が勉強になりました。

天野 そうですね。異なる文化のバックグラウンドを持つ仲間と触れあうことで、自分の視野がずいぶん広がりました。本当の意味での国際交流ができたと思います。



文学部英米文学科 4年
天野 美帆 さん

仙波 川口君は英米文学科の学生ですが、なぜ、留学先にタイを選んだのですか？

川口 英米文学を学んでいると、どうしても視点が欧米に偏りがちになります。でも、世界は欧米だけではありません。だから「日本に近いアジアの文化に、もっと目を向けてみよう」と思い立ち、タマサート大学への協定校留学に挑戦してみようと思ったのです。

仙波 最近は、きみのようにアジアに関心を向ける若者が増えているんですよ。

川口 ええ、仏教文化の強いタイという国には、キリスト教文化の欧米とはまた異なる魅力があります。実際、現地で学んだ歴史や文化、美術など、どれも独特で興味深いものばかりでした。またタマサート大学には、英語で受講できる英米文学プログラムがあり、私はタイやカンボジアからアメリカに移民した人々の文化や生活についても学びました。

天野 私もワシントン大学でアジア系アメリカ人の文化について勉強しました。

仙波 天野さんの留学理由は？

天野 中学3年の時、私はペンシルバニアでホームステイを経験したのですが、あまり英語が話せず、とても悔しい思いをしました。それ以来、英語が上達してから、ぜったいにもう一度アメリカ生活にチャレンジしようと心に決めていたのです。

仙波 念願の留学では、どんなことを学びたかったのですか？

天野 まず、現地で生活する中で、生きた英語を身につけたいという思いが強かったですね。ワシントン大学のカリキュラムは地域密着型といえるもので、予想以上に多彩な授業プログラムが用意されており、満足のいく留学生活を送ることができました。

留学のチャンスを活かして 異文化を楽しもう！

仙波 張君は、北京外国語大学で日本語を専攻していたのでしたね。

張 はい、私は中学校から第一外国語として日本語を選択しました。日本製TVゲームが好きだったのできっかけです(笑)。大学でも日本語を専攻しましたが、やがて「実際に日本に行ってみなければ」と強く感じるようになりました。天野さんが言われたように、日本人



文学部英米文学科4年
川口 研太 君

と交流しながら、生きた日本語を修得しようと思ったのです。

仙波 青山学院大学の印象はいかがですか？

張 まずとても伝統ある大学だと感じました。教室や学生食堂などの設備は素晴らしいですね。そして日本の大学生は、一人ひとりが自分の生活をとても楽しんでいるように見えます。

仙波 確かに中国の大学生は本当に猛勉強していますよね。張君も留学生活を楽しんでいますか？

張 もちろんです。青山キャンパスそばの常青寮に入っていますので、そこを拠点に、大相撲、歌舞伎、能楽といった伝統文化を楽しんだり、寮周辺の表参道や原宿の街並みを歩いたり、日本での生活を満喫しています。

天野 旅行には行かれましたか？

張 はい、初秋の京都を訪れ、銀閣寺、清水寺など素晴らしい建築物を見ました。ただ紅葉の季節にはちょっと早かったのが残念です。そういえば、留学生仲間と夜行バスで「愛・地球博」に出かけたこともいい思い出です。川口君と天野さんは、それぞれ留学中はどのように暮らしていたのですか？



北京外国語大学受入れ留学生
張 舒鵬 (チョウ・ジョホウ) 君

川口 タイでは、最初の3カ月はコンドミニアム、その後は大学寮で生活しました。この寮がなんと5人部屋！ タイ人のルームメイトとの暮らしは、楽しいことも多かったのですが、生活習慣や文化の違いで戸惑うことも少なくありませんでした。でも、仏教徒らしく就寝前に必ずお祈りを捧げていたのには感動しましたね。滞在中はタイを拠点に、インド、スリランカ、ミャンマー、ラオスにまで足を伸ばしました。そして、どの国でも感じたのは人の温かさです。

天野 私は最初、学生寮で暮らしていましたが、その後、アパートを借りて一人暮らしをしました。シアトルの家賃は日本では考えられない

ほど安いのです。近くには日本食関係なら何でも手に入るスーパーもありましたから、食生活もまったく問題ありませんでした。もちろん、マリナーズのイチロー選手の試合も見に行きました。シアトルの人々は、みんなイチローが大好きでしたよ。休暇を利用して友人たちとクルマを借り、西海岸沿いにポートランド、サンフランシスコと南下して、ロサンゼルスまでロードトリップを楽しみました。ちょっとした冒険で、いい思い出になりました。

留学生生活を“語る”ことから生まれる国際交流

天野 今ふり返って思うのは、1年間という留学期間が目標を定めて集中して勉強するのにちょうど良い長さだったということです。大学での勉強も現地の生活もたっぷり体験できましたし、あちらの生活に飽きないうちに帰国できました(笑)。

川口 でも、私の場合は、帰国した途端、またタイに行きたくなりました。

天野 私も同じ気持ちです。

川口 せっかく少し話せるようになったタイ語ももっと上達させたいですし、タイの大学院に進学することも考えています。

張 私も、できればもう少し日本にいたいですね。ぜひ、日本の友人たちが勤める北海道にぜひ行ってみたい。1年間はあっという間でした。

仙波 これまで私は何人も留学を経験した学生を見てきましたが、彼らは必ず留学前よりアクティブになって帰ってきます。そして、そのアクティブな姿勢が他の学生にも良い影響を与えてくれます。川口君も天野さんも、留学中の体験をどんどん仲間に話して、キャンパスに国際交流の活気をもたらししてください。そして張君も中国に帰国したら、自分が日本で体験したことを、ぜひ中国の人たちにたくさん話してください。そこから本当の意味での国際交流が生まれるのですから。

張 もちろん、中国の友人たちには日本のことをすべて話すつもりです。こんなに楽しかったのだから、とても黙ってなんかいられません。



新規交換協定校について

このたび新たに8校が、本学の交換留学協定校となりました。

本学が海外の協定校を決定するにあたっては、いくつかの基準があります。まず重視しているのは、相手の大学が「質の良い教育を提供し、本学の学生を派遣するために適切な学習環境を有しているか」ということです。さらに「日本語を学ぶ学生がいるか」「両大学の学事暦が適合するか」といった点も考慮されます。

また、第二外国語として開講しているにもかかわらず、その言語が使われている地域に協定校不在というケースがあり、こうした地

域に新しく協定校を開拓することも急務です。

海外大学との協定締結は、相手校のイニシアチブによることもありますが、本学教員による紹介、学生の要望・ニーズを考慮した上で、本学からの働きかけで実現することもあります。国際交流センターでは、今後も新規協定校の開拓に力を注いでいく予定ですので、留学に関心を持つ学生のみなさんのご意見・ご要望をお待ちしています。



上海師範大学(中国)



Seoul Women's University(韓国)

●新規協定校

- 上海師範大学(中国)
- Seoul National University(韓国)
- Seoul Women's University(韓国)
- University of Florida(アメリカ)
- The University of Montana(アメリカ)
- The University of Vermont(アメリカ)
- University of Salamanca(スペイン)
- Oxford Brookes University(イギリス)

●協定校(54校)

- | | | |
|-----------|--------------|-------------|
| 台湾……………1校 | タイ……………2校 | フランス……………2校 |
| 中国……………4校 | エクアドル……………1校 | ドイツ……………2校 |
| 香港……………1校 | カナダ……………1校 | ロシア……………2校 |
| 韓国……………6校 | アメリカ……………23校 | スペイン……………1校 |
| マレーシア…1校 | オーストラリア…3校 | イギリス……………4校 |

「学部・学科独自の海外研修制度について」

●出席者

「経営学部カリフォルニア大学サンタバーバラ校ビジネス英語研修」参加

齋藤 安希子 さん(経営学部2年)

「国際政治経済学部ニューヨーク国連本部研修」参加

山口 幸哉 君(国際政治経済学部3年)

青山学院大学には、国際交流センターが主催する全学的な海外研修制度のほかに、各学部・学科が独自に行っている海外研修制度があります。こちらは、学部・学科の専門性を活かし、目的を特化したプログラムで行われていることが特徴で、学生からも好評です。

経営学部と国際政治経済学部が実施している海外研修プログラムに参加した学生に、仙波副学長がそれぞれ感想を聞きました。

国連職員の方の凄さに打ちのめされました

仙波 山口君は、もともと国連という組織に関心があったのですか？

山口 ええ、漠然とですが国連職員になりたいという気持ちがあり、「ニューヨーク国連本部研修」に参加することで、少しでもその道筋が見えれば……という思いがありました。

仙波 道筋は見えましたか？

山口 約3週間の研修のなかで、多くの国連職員の方々とお会いするうちに、ある意味で打ちのめされました。とにかく、並はずれて優秀で、人間的にも素晴らしい人々ばかりだったのです。タフな仕事をばりばりとこなしている彼らの話を聞いていると、「自分はまだまだだなあ」と、思わずはいられませんでした。現場の方々のセミナーを受けた後、グループごとに、国連本部の図書館などで資料収集し、プレゼンテーションを行いました。

仙波 よい経験になりましたね。

山口 はい。「自分も彼らのようになりたい」



経営学部2年
齋藤 安希子 さん

という気持ちの方が、より強くなりました。また、国連組織には各国の省庁などから派遣されて働いているスタッフがかなり多いことがわかりました。私は進路のひとつとして防衛庁も考えており、そこから国連に派遣されるという可能性も見えてきましたので、なんとか頑張ってみるつもりです。

私たちにとっての英語は「夢」を実現するツール

仙波 齋藤さんはなぜビジネス英語研修に参加したのですか？

齋藤 ハリウッドなどの国際的なエンターテインメント・ビジネスに興味があり、将来のことは、まだはっきりと決めていませんが、外資などの映画会社や広告会社で働きたいという昔からのひとつの夢があります。ビジネス英語研修に参加することで、その漠然とした夢が少しでも具体化され、夢に向けての第一歩を踏み出そうと思ったのです。

仙波 それもまた、とても素敵な夢ですね。国際ビジネスに興味を持ったのは、大学に入学してからですか？

齋藤 実は中学生の時にアメリカでホームステイを体験したことがきっかけです。当時はそれほど英語が話せませんでしたけれど、現地での生活を通して、アメリカのエンターテインメント文化の素晴らしさ、そして異文化交流の楽しさに目覚めました。

仙波 では、今回「ビジネス英語研修」に参加して、いかがでしたか？

齋藤 サンタバーバラ校では午前はイタリア、台湾、韓国、中国などからの学生と共にビジネス英会話中心のクラスで学び、午後は教



国際政治経済学部3年
山口 幸哉 君

室を出てのフィールドワークが多かったです。カリフォルニア大学のラジオ局へインタビューへ行ったり、公営、市営のそれぞれのコーヒESHOPのスタッフにインタビューしてケーススタディをしたりしました。授業プログラムはもちろん、私にとって滞在中に各国の学生たちと交流できたことも大きな収穫でした。短期間の研修でしたが、中身は日数以上に濃かったと思います。英語の勉強に関しては、研修に参加したことによって、モチベーションがもっと高まったことは確かです。

山口 私もそうですね。青学在学中には、国連スタッフとして最低限必要となる英語力はしっかり身につけておくつもりです。とにかく生半かな気持ちでは国連スタッフになれないということは身に染みてわかりました。必要とされる知識や経験を積み、いつか国連の力になれるようになりたいです。

仙波 二人とも、研修に参加して具体的な目標ができましたね。ぜひ、それぞれの夢を実現できるよう、これからも努力を続けてください。応援しています。



青学体育会「私たちの4年間と後輩へのメッセージ」

青学体育会各部は、2005年度シーズンも素晴らしい成績を残しました。ここでは、この3月に卒業する体育会各部を代表してバスケットボール部、陸上競技部、レスリング部の各選手からのメッセージをお届けします。あわせて選手たちの活躍をあたたく、時には厳しく見守ってきた女子バレーボール部、バスケットボール部の両監督にお話をうかがいました。

バスケットボール部

第57回全日本学生バスケットボール選手権大会で準優勝。主将の大屋秀作君は優秀選手賞、センターの佐藤託矢君は、敢闘賞(得点ランキング2位)を受賞しています。また、佐藤君はU-24日本代表選手にも選出されました。

大屋秀作君 国際政治経済学部4年



バスケットボールをしていたからこそ、監督やコーチから精神面での指導を受け、自分を甘やかさずに勉強も頑張れた4年間でした。今年は特に、かつて無いほど多くの応援の方が会場に足を運んでくださったので、主将としては初めての方も見続けてくださっている方にも青学らしいプレーを見てもらえるようチームを引っ張ったつもりです。後輩

たちは影で4年の私たちを励まし、力を尽くしてくれたので、絶対に負けて欲しくないと思っています。来年度のチームにも応援を是非よろしくお願いします。

佐藤託矢君 文学部4年(2005年・U-24男子日本代表)

05年5月の京王電鉄杯で優勝したことでチーム力を過信していたからか、関東大学選手権で悔しい思いをし、反省しました。本当にチームがまとまり、力をつけたのは韓国遠征後で、その日、その1試合にける思いがより強くなった実感が得られました。関東大学リーグ戦優勝と全日本学生選手権の準優勝という結果は、それが大きかったのではないかと思います。監督には肉体的にも精神的にも育ててもらったと感謝しています。同じセンターの後輩・荒尾君には強い気持ちで頑張ってください。



梶原剛君 経営学部4年



練習中は下級生からも遠慮なく言葉を掛け合ったり、集まって話したりできる本当に仲の良いチームでした。逆転されたら自分が出るチャンスだと信じて、大事な試合で力を出せたのは、チームの一体感に加え、ベンチにいるときも試合に集中してコートに出たときに何をすべきかを常に考えるよう繰り返し助言してくださった監督と、よく相談

のってくださった山崎コーチのおかげです。後輩たちは実力があるので、さらに上の目標を目指して欲しいです。

高橋和明君 文学部第二部4年

4年間の中で、今年のチームが最も一丸になっていたのではないかと思います。マネージャーとして、選手の皆が気持ちよくプレーできるよう、声をかけて盛り上げたり、正確にスコアをつけるなど自分なりにできました。第二部に所属なので、授業時間が練習と重なることがあり、特に3~4年は授業が多くなりましたが、それでクラブに迷惑をかけないように努力しました。当初からマネージャー志望だった私は、4年間青学バスケットに関われたことが嬉しいです。監督はじめスタッフの皆に感謝しています。



四歳からレスリングを始めたという池田弘美さん。ジャパントイーンズカップ2005、平成17年度天皇杯全日本レスリング選手権大会において、いずれも48kg級で3位となりました。

青学のレスリング部では女子部員が一人。ふだんは軽量級の男子部員を相手に練習に励んでいましたが、男子と女子では試合のやり方が違います。そこで、大会前には女子と練習するため他大学へ出稽古に励みました。厳しい環境でしたが、大学4年間のレスリング生活は楽しかったですし、競技へのモチベーションも落ちることはありませんでした。その結果として昨年の天皇杯で五輪メダリストの伊調千春選手、世界選手権メダリストの坂本真喜子選手に次ぐ3位という成績を残せたことを誇りに思っています。実は大学時代の試合でいちばんうれしかったのは、2005年度のインカレ一回戦で、それまで勝つことができなかった相手に勝利した時でした。まるで優勝したみたいに泣いてしまったんです。

レスリング部

小学校教員をめざして学んでいた第二部教育学科では、社会で働きながら勉強しているクラスメートも多いので、練習の疲れを言い訳にせず、休まず授業に出て、教員免許状を取得しました。忙しいなか大会に応援に来てくれるクラスメートもいて、様々な職業、年齢層の方々と知り合えた第二部で学んでほんとうに良かったと思います。



文学部第二部4年
池田 弘美さん

この1月、ロシアで開催された国際大会に出場し、これが私の引退試合になりました。大学卒業とともに選手は引退しますが、教員をやりながら、地域の子どもたちを指導するなど、これからもレスリングとはずっと関わっていくつもりです。

中長距離の選手である仲村一孝君は、2006年1月2日(月)～3日(火)に行われた第82回東京箱根間往復大学駅伝競走において、関東学連選抜チーム第4区走者として出場しました。

青学のユニフォームを着て走った念願の“箱根路”……これまでレースで緊張したことなどなかった私ですが、さすがにこの大舞台ではあがってしまいました。当日は、決して本調子ではなかったものの、沿道の応援から大きな力をもらい、次の区間にタスキをつなぐことができました。まさに、私にとって大学4年間の集大成といえるこのレースで、自分のすべてを出し切ることができたと思います。

そして今、原晋監督の指導のもと、4年間、陸上競技に打ち込めたことに対する感謝の気持ちで一杯です。ここ数年で、陸上競技部は本当の意味での一体感のあるチームに成長しました。部員同士がお互い本音で語り合い、切磋琢磨しながら、確実にレベルアップを図ることができたと思います。今回も関東学連選抜メンバーに選ばれていた米澤豪(法学部1年)をはじめ、私が卒業しても何人もの実力ある後輩たちが残っています。彼らの一人ひとりが自分の役割を把握し、自分に甘えることなく練習に励めば、“青学チーム”として箱根駅伝出場が実現する日も近いでしょう。私自身は、4月から実業団チームの一員となります。一日も早く原監督と青山学院大学への恩返しができるよう、これからもランナーとして精進していきたいと思っています。



写真提供/月刊陸上競技



経営学部4年
仲村 一孝 くん

陸 上 競 技 部



写真提供/体育会広報愛好会 青山スポーツ

学びながら、楽しみながら、強くなる——

それが青学女子バレーのスタイルです

女子バレーボール部 生瀬良造 監督

関東大学リーグ戦春季優勝・秋季準優勝、東日本インカレ2連覇、そして全日本大学選手権では17年ぶり2度目の優勝……。2006年2月で定年退職となる私に、部員たちは最高の贈り物をしてくれました。本学の女子バレーボール部は、あくまでも学業優先の姿勢を貫いています。そのため他の強豪大学では考えられないほど全体練習量が少なく、合宿練習もありません。私は部員たちに「学業でもトップをめざせ」と言ってきましたし、就職のアドバイスもしてきました。勉強にも、スポーツにも真剣に取り組んだ彼女たちは、素晴らしい集中力とチームワークでを發揮しながら、確実に強さを身につけてきました。試合においては、貪欲に勝つことの喜びを求め、最後まであきらめない姿勢を見せてくれました。そして何より、一人ひとりが楽しんでバレーボールに打ち込んでいました。バレーボールはもともと老若男女誰もが楽しめるスポーツとして生まれた競技です。練習や試合を楽しみながら、強さを身につけていった部員たちは、いわばバレーボールの原点に近いところにいるのではないかと考えています。今回、「日本一」を手にしましたが、更に高い目標を持って連覇を目指すため世界に目を向けた新しい青学女子バレーのチャレンジが始まります。来年度も、部員たちへのあたたかいご声援をよろしく願っています。



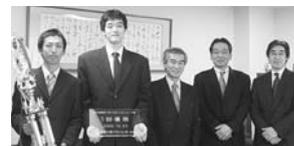
全日本大学選手権会場にて(右端が生瀬監督)

一度試合を見たら、また見に行きたくなる——

“感動するバスケット”を、ぜひご覧になってください

男子バスケットボール部 長谷川健志 監督

関東リーグ2部落ちという苦しい時期に、1年生だったのが今の4年生部員たちです。彼らはその後チームの主力として力を發揮し、1部復帰の原動力となりました。武藤学長に優勝報告(右から2番目が長谷川監督) また、相模原キャンパスが開学し、素晴らしい練習環境を得たことも私たちの大きな力になりました。そして2005年度、関東大学リーグ戦1部優勝、全日本選手権準優勝を成し遂げました。



武藤学長に優勝報告(右から2番目が長谷川監督)

4年間を通して着実にステップアップを果たした大屋は、主将としても力強いリーダーシップを發揮し、チームをしっかりまとめてくれました。恵まれた体格と器用さを併せ持つ佐藤は、私が18年間の監督生活の中で初めて出会った本物の天才プレーヤーであり、日本代表になるべき選手です。技術面での理解力に優れ、精神的な強さもある梶原は、何度も負け試合をひっくり返したもともと頼りになるプレーヤーでした。そしてスタッフとしてプレーヤーたちをサポートし、その成長を見守ってきた高橋……この4年間で彼等自身も大きな人間的成長を遂げたと思います。

4人が抜けた来シーズンは、決して楽な戦いはいけません。しかし、私と部員たちは、新たなスタイルで日本一をめざしていきます。青学のバスケットは、単に強いだけではなく、見る者を感動させるプレーが身上です。一度試合をごらんになれば、私の言う意味がわかっていたら……来年も多くのの方々のご声援を期待しています。



文部科学省現代的教育ニーズ取組支援プログラム 公開シンポジウム

都市文化の創造と渋谷・原宿・青山の未来像 ～観光立国・オリンピック招致への受け皿づくり～

2005年12月7日、総合研究所ビル大会議室において文部科学省の「現代的教育ニーズ取組支援プログラム」の一環として、標記シンポジウムが開催されました。当日は本学教職員・学生約100名のほか、報道関係者約10名、行政機関から約80名（文部科学省・国土交通省・東京都・渋谷区・港区）、他大学の執行部の方々約10名、民間企業から約300名の合計約500名が来場し、立ち見も出るほどの盛況ぶりでした。



桑原敏武 渋谷区長

シンポジウムは武藤元昭学長と桑原敏武・渋谷区長の挨拶に始まり、続く基調講演では、建築家・黒川紀章氏が米国のGDPの第1位は著作権産業であり、経済の牽引車は都市と文化であること、緑は保全するものではなく創造するものであることなどを指摘。また映像での講演を担当した森ビル(株)社長・森稔氏からは、六本木ヒルズにおいて最も価値の高いフロアを全て美術館などアート関係にあてたことが紹介されました。



建築家 黒川紀章氏

さらに研究報告では、NPO渋谷・青山景観整備機構より、機構の使命についての説明と観光立国・オリンピック招致に向けたまちづくりプロジェクト等の提案がなされ、また本学総合研究所および本学学生からは、同プロジェクトの実現化方策に関する研究成果の紹介がありました。

続くパネルディスカッションは2部構成となっており、第1部「文化創造面での渋谷・原宿・青山エリアの魅力」では北原照久（横浜ブリキ

のおもちゃ博物館館長）・城戸真亜子（画家）・林真理子（作家）・毛利臣男（空間演出家）・眞木準（コピーライター）の各氏が、第2部「社会学連携：都市と大学との新しい関係」では寺脇研（文化庁文化部長）・永井多恵子（NHK副会長）・中村英夫（武蔵工業大学長）・山縣喜代（聖心女子大学長）・井口典夫（青山学院大学）の各氏が登壇し、様々な意見交換を行いました。北原氏からは「経済効果なくして文化なし、文化なくして経済なし」、寺脇氏からは「障害は常に組織の内側にある」、中村氏からは「危機意識を持って今から行動しないと、渋谷・原宿・青山も浅草のようになってしまう」との指摘を受けました。

シンポジウムの様子は、日本経済新聞や東京新聞にて紹介されたほか、NHKのニュース番組や東京都・石原知事の記者会見でも言及されました。本シンポジウムの狙いは、本学が渋谷・原宿・青山エリアを対象にグローバルな視点と人の目線で街並みづくりのリード役を務め、かつ先端都市文化の発信地になるとの姿勢を内外に示すことにありましたが、結果として、その目的は十分に達成されたように思われます。



文学部日本文学科主催 国際学術シンポジウム

『源氏物語』と和歌世界

広く社会へ、そして世界に最新の研究成果を発信していくために。日本文学科では、昨年度より国際学術シンポジウムを開催しています。2006年1月14日（土）、青山キャンパス総研ビル12階大会議室にて、第2回となるシンポジウムを開催。予想を超える多くの方が来場され、大盛況のうちに終了しました。

今回のテーマは「『源氏物語』と和歌世界」。『源氏物語』といえば、現在も人気の高い、日本が誇る古典作品ですが、作中に795首もの和歌が挿入されています。シンポジウム前半は、こうした和歌表現から多くのものを養分としてくみ上げ、西欧的な散文の概念を超えて構築

された『源氏物語』の表現をめぐって、本学文学部日本文学科・土方洋一教授、東京大学大学院・藤原克己教授、そして米国における日本文化・日本文学研究のメッカであるコロンビア大学からハルオ・シラネ教授という、第一線の研究者3名のパネリストが基調報告を行いました。それぞれ源氏和歌の文学史的考察、源氏和歌の多義性、『源氏物語』の受容史等の多様な視点から、深みと広がりのあるお話をされ、客席ではノートを取りながら熱心に聞き入る参加者の姿が目立ちました。

休憩をはさんだ後に行われたディスカッションでは、会場からの質問も多く飛び出しました。

「あらかじめ予習をして参加された方も多いようで、質問のレベルの高さに驚きました。特に、若い世代の方ばかりでなく、年輩の方々の古典文学に対する関心の高さには驚くべきものがあります。こうした一般の方々の学問的意欲は、私たち研究者にとっても大きな刺激となります。私自身、今回来場された方々の反応やご質問によって、これから教育と研究を進める上での大きなヒントを得ることができました」（土方教授）

当日、参加された方々へのアンケートでは「次回も参加したい」と解答された方が圧倒的に多く、大学という場で学ぶことに対して、一般の方々が大きな魅力を感じていることもわかりました。

次回の国際学術シンポジウムは中世の文学を取り上げ、今年9月頃に開催される予定です。ご期待ください。



北里大学医学部と本学理工学部の学術交流協定—医工連携のもたらすもの—



理工学部長
穂積 宏誠 教授

理工学部和北里大学医学部は、2004年から包括協定のもと連携関係を結び、現在、生命科学分野での共同研究を開始していますが、今後はこうした協力関係をとくに工学系分野へと拡大していくことを目指しています。じつは、すでに医療分野には電子工学を中心とするさまざまな工学的技術が浸透しており、工学系の各学会には医学関係への応用を目指す数多くの研究会が立ち上げられています。たとえば、電子情報通信学会の「ME (Medical Electronics) とバイオサイバネティクス」には長い歴史がありますし、画像処理分野には「医用画像」という研究会も発足しています。また、機械学会にはバイオエンジニアリング部門として多くの研究会が設置されています。もちろん理工学部にすでに他の医学関係者と共同研究を始めている教員がいますし、北里大学医学部

でも個々に他大学の理工系研究者との共同研究が行われていると聞いています。そもそも、こうした取り組みをもっと組織的に行っていきたいというのが北里・青山両学部の狙いなのですが、個々の研究上のつながりもあり、軌道に乗せるにはもう少し時間が必要です。また、研究全体を支えているコンピュータやネットワーク技術に関し、両学部の実務的なつながりは強いのですが、共同研究という形での研究者同士の協力関係はまだそれほど例が多くありません。こうした状況の突破口となることを期待して、「医療と健康に役立つ情報テクノロジー」をテーマに、青山学院大学理工学部・北里大学医学部第2回合同公開シンポジウムが開催されました。今しばらく、医学部で医療現場におけるニーズ・シーズの掘り起こしを図り、理工学部でそれに対応可能な技術とアイデアを模索するという作業を続けていくことになります。その結果、他では見られない医と工の連携が実現されることを期待しています。

大学・高等部共催 学内公開フォーラム

「私たちは戦争体験をどのように受けとめ、引き継げばよいのか」開催報告

2005年12月3日(土)、青山キャンパス総研ビル12階大会議室にて、標記の学内公開フォーラムが開催されました。このフォーラムは、昨年の高等部の英語入試問題の出題で、平和を訴えてきた元ひめゆり学徒の方々の長年にわたる努力を損なう事態



森まゆみ氏

が生じたことを受け、高等部と大学の教員が、青山学院として平和や戦争について学ぶ場を設けたいという考えにより企画されたものです。また、これに先立ち、高等部生と大学生から、それぞれ「これは自分たちの問題でもある」という声があがったこと、さらに元ひめゆ



仲田晃子氏

り学徒をはじめとする沖縄の方々への青山学院に対する深いご理解も開催の大きな原動力となりました。基調講演は文学部教授の平田雅博氏が行い、ゲスト講演者として、戦災体験者からその記憶を引き出すという地道な作業を続ける森まゆみ氏、ひめゆり平和祈念資料館説明員の仲田晃子氏、そして青山キャンパス構内で東京大空襲の被害に遭われた青山学院校友の柳江智子氏の3名。それぞれの立場で戦争体験と向き合うお話を、生徒・学生、父母、教員、卒業生など当日集まった約250名の聴衆は熱心に聞き入り、戦争の惨禍の“記憶”を共有する大きなきっかけづくりができました。



柳江智子氏

その後、高等部生3名と大学生3名が発言者として参加したディスカッションでも、戦争と平和の問題に対する学院関係者の関心の高さがうかがわれました。

今回のフォーラムで共同委員長を務めた伊藤定良文学部長は、「戦争を直接体験された方々が少なくなっている今、その記憶を若い世代が引き継いでいくことは急務であり、地道に取り組んでいくべき問題です。今回のフォーラムは、あくまで私たちの取り組みの第一歩に過ぎません」と、今後も戦争と平和を考えるこうした催しを継続していくと語ってくれました。



アドバイザー・グループに入ろう!

本学特有の課外活動で、アドバイザー・グループ(通称「アド・グル」と呼ばれています)の制度があります。このシステムは、教員がアドバイザーとして学生と人格的に交わることを中心に、教員と学生・学生相互が人生あるいは学問の先輩・後輩として、各種懇談会・読書会・見学旅行・ピクニック・ボランティア活動・各種スポーツ合宿などの諸活動を通して、物の見方・考え方、そして生き方を共に深く探求することを目的としています。

教室を離れ、アド・グルの教員を中心に集まった仲間と共に

食べ、共に学び、人生を語ることはとても有意義なことです。在学中ばかりでなく、きっと卒業後にも交わりが深まり、一生を通して心高め合うことのできる価値ある出会いの場ともなります。

新入学生はもちろんのことが在生も、有意義な“つながり”として、積極的に参加しましょう。アド・グルの参加は、一年毎の登録制度になっていますので、年度初頭に配布される「アドバイザー登録のしおり」を参照してください。

(学生部長 本郷 茂 記)

アドバイザー登録について

●アドバイザーの登録

- ・受付期間 2006年4月11日(火)～19日(水)
- ・受付場所 相模原キャンパス 学生生活グループ(B棟1階学生センター)
青山キャンパス 学生部学生課(1号館1階)

●その他

- ・アド・グルは、1年毎の登録制度になっています。
- ・アドバイザーによっては、若干の条件や制限を設けている場合があります。
- ・アドバイザーの選択は自由です。



課外教育プログラム NHKアナウンサー 野村正育氏講演会



NHKアナウンサー 野村正育氏

2005年12月7日(水)、学生部主催「2005年度課外教育プログラム」の一環として、ボランティアフォーラム「NHKアナウンサー 野村正育氏 講演会」をガウチャー記念礼拝堂にて開催しました。

当日は、野村氏より課外教育の主旨に沿って、ご本人や大学生のボランティア活動への参加姿勢に対する講演、現職の報道活動に関連した講演や地雷廃絶運動に関連した団体の講演など、野村氏自身も、積極的に支援活動に携わっている内容となりました。

また、ご本人よりの配慮として、当日参加者が大学生中心なので、特にマスコミなどへの就職活動などへの参考にと、報道番組の制作過程や現場の雰囲気を感じられるお話、現場担当者としての報道姿勢など、マスコミへの就職希望者にとっては参考になるお話も聞けました。講演終了後の質疑応答では、参加した約60名の方々と熱気を含んだやり取りが礼拝堂を包み込みました。

学生部では、今後とも学生にとって、日々の正課(授業)では得られない内容のプログラムを企画していく予定です。

Club & Circle Information

問い合わせ先 〒150-8366
青山学院大学学生部学生課
Tel 03-3409-7835

*主な文化連合会・体育連合会の活動予定。

下記大会演奏会の日程・場所は予定のものです。今後変更になる可能性もあります。

主要活動予定(2006年4月～5月)

- ゴルフ部 関東大学対抗Dブロック団体戦(5月)
- サッカー部 JR東日本カップ2006 第80回関東大学サッカーリーグ戦(4月)
- 射撃部 春季関東学生ライフル射撃選手権大会(4月)
- 少林寺拳法部 第43回少林寺拳法関東学生大会(4月)
- 準硬式野球部 東都大学準硬式野球春季リーグ(4月)
- 水泳部 春季東京都大会(4月)
- ソフトテニス部 東都大学春季リーグ戦(5月)
- 軟式野球部 東都大学軟式野球連盟春季リーグ戦(4月)
- バスケットボール部男女 関東学生バスケットボール選手権(5月)
- バレーボール部男女 春季関東大学バレーボールリーグ戦(4月)
- フェンシング部 東京都個人選手権大会(5月)
- ボクシング部 関東大学ボクシングトーナメント戦(5月)
- ヨット部 関東学生ヨット春季選手権大会(5月)
- ラグビー部 東日本セブンス大会(5月)
- パワーリフティング部 関東学生パワーリフティング選手権大会(5月)
- オーケストラ部 第88回定期演奏会(5月)
- グリーンハーモニー合唱団 東京六大学混声合唱連盟定期演奏会(5月)
- 箏尺八研究会 関東学生三曲連盟新人演奏会(4月)
- 競技ダンス部 東都大学学生競技ダンス選手権大会(4月)
- ロイヤルサウンズジャズオーケストラ 京王沿線大学ピアガーデンビッグコンサート(5月)
- 二部準硬式野球部 東都大学準硬式野球春季リーグ(4月)
- 二部バドミントン部 関東学生バドミントン春季リーグ戦(5月)

主要活動報告(2005年12月～2006年3月)

- アイススケート部ホッケ一部門 平成17年度関東大学アイスホッケーリーグ2部2位(1部昇格)
- 硬式庭球部女子 関東大学対抗テニス選手権 3位
- バスケットボール部男子 第81回全日本学生バスケットボール選手権 準優勝
- バドミントン部女子 平成17年度関東学生新人バドミントン選手権大会 シングルス 優勝
平成17年度関東学生新人バドミントン選手権大会 ダブルス 準優勝
- バレーボール部女子 平成17年度第52回全日本大学バレーボール選手権大会 優勝
- 吹奏楽バトントワリング部 東京都大学吹奏楽連盟アンサンブルコンテスト クラリネット8重奏 金賞
- 二部硬式野球部 関東二部硬式野球連盟 個人戦ダブルス 優勝

「大学オルガニスト養成講座」 受講生発表会



「大学オルガニスト養成講座」受講生による発表会が相模原キャンパスでは12月8、14、16、20日の昼休みにウエスレー・チャペルで、青山キャンパスでは2月6日(月)18時よりガウ



チャー記念礼拝堂にて行われました。演奏は2005年度に各キャンパスで開講された、堀井美和子、作井清雅子、筒井淳子、越川伊豆美、飯靖子、鷺晶子クラスの受講生29名によるもので、受講生の1年間のレッスンの集大成としてそれぞれが精魂込めて準備し、素晴らしい演奏を捧げ、あらためてオルガン音楽の豊かさ深さを堪能させられる祝福された一時となりました。

第二部スプリング・カレッジ



2006年2月4日(土)・5日(日)の両日、YMCA 東山荘(御殿場)を会場に、第二部(夜間部)学生を対象とした「第二部スプリング・カレッジ」が開催されました。特別

講師に日本キリスト教団梅ヶ丘教会牧師・本学非常勤講師の塩谷直也先生を迎え、「泣く人は泣かない人のように——絶望の中にも笑いを捨てない、キリスト教終末論的生き方のすすめ——」の主題のもと、講演を聴き、活発なディスカッションを行いました。塩谷先生は難解なテーマをとてわかりやすくお話しくださり、「キリスト教終末論的に見るならば、今の苦しみは笑いに変えられる。涙が出てくるような毎日であっても、まるで泣かない人のように生きることができる」との勧めは、参加者一同に新しい勇気と希望を与えてくれました。40名程の小さな集いでしたが、塩谷先生の不思議な魅力に引き込まれながら、充実した二日間を過ごしました。

学院におけるアスベスト使用の実態調査および処置について

本学院におけるアスベスト使用の実態調査についてご報告します。調査により、構内が安全であることは確認されておりますが、調査内容とその結果、および処置などについては以下の通りです。

本学院では各施設におけるアスベスト使用につき、かねてより図面での確認や現地調査をはじめ、建材の試料採取による分析調査などをしてまいりました。

以上の調査により、中等部東校舎視聴覚教室の舞台天井でアスベスト吹き付け材の使用が明らかになりましたが、すでにこの8月に除去工事を完了しております。

また青学講堂のサイドステージ壁と天井、正面ロビー廻り天井、大

学9号館940教室後部天井にて使用が認められましたが、いずれも浮遊アスベスト測定で問題のないことを確認いたしました。さらにそれらについて根本的な改修工事をいたします。

また、学生等が立ち入ることができない機械室や倉庫などの一部におきまして、アスベスト使用がありました。それらについても根本的な改修工事をいたします。

今後も引き続き、適切な安全対策をおこなってまいります。現状の調査および対処は以上のとおりです。本学院内におけるアスベスト浮遊・飛散の問題はありませんので、ご理解のほどをよろしくお願い申し上げます。

青山学院における個人情報保護への取り組みについて

青山学院は、個人情報の重要性を認識して取扱いに留意し、万全を期して個人情報保護に取り組んでおります。ここでは、「学校法人青山学院個人情報保護に関する規則」の骨子をご紹介します。

1. 法令等の遵守

個人情報保護の重要性を認識し、個人情報保護に係る法令その他関係法令及び本法人の諸規則等を遵守いたします。

2. 個人情報の取得

個人情報は、利用目的を明確に定め適正に取得いたします。

3. 個人情報の利用

法令等で定める場合を除き、あらかじめご了承いただいている収集時の利用目的以外には、本人の同意を得ることなく利用または提供いたしません。

4. 第三者への提供の制限

法令等で定める場合を除き、個人情報をあらかじめ本人の同意を得ることなく第三者には提供いたしません。

5. 個人情報の開示及び訂正

本人もしくはその保護者(本人が生徒、児童、園児の場合)または保証人から個人情報の開示、訂正を求められた場合は、必要に応じて対応させていただきます。

6. 個人情報の安全措置

個人情報の漏えい、滅失、毀損、改ざん及び不正アクセスの防止のために、情報セキュリティ対策などの必要な措置を講じます。

7. 委託先の指導及び管理

本法人が個人情報の取り扱いを含む業務を外部に委託する場合は、個人情報の適正な取り扱いについて、講ずべき措置を明確に示し、適切な指導及び管理を行います。

「各国大使講演シリーズ」第5回 羅鍾一駐日韓国大使講演 「日韓関係と北東アジアの平和構築」



羅鍾一 韓国大使

2005年が日韓国交正常化40周年にあたり、本学でも新たにソウル大学やソウル女子大学との交換協定が結ばれたり、日韓露三ヶ国の音楽家による「みどりと平和のコンサート」が開かれたりしましたが、両国間では竹島問題や靖国問題もあり、盧武鉉（ノムヒョン）大統領の訪日も実現には至りませんでした。

こうしたなか、2006年1月18日（水）に各国大使講演シリーズの第5回目として、羅鍾一韓国大使が「日韓関係と北東アジアの平和構築」と題して講演を行いました。会場には深町正信院長、武藤元昭学長はじめ、学外からも多くの方が出席しました。

羅大使はケンブリッジ大学から博士号を取得した国際政治学者で、慶熙大学教授を務めた後、駐英韓国大使や大統領秘書室国家安全保障補佐官など政府の要職を歴任し、2004年3月から駐日大使を務められています。

講演は、長期的視野から日本と朝鮮半島との関係、韓国の近代化、および米韓関係などについて論じたバランスのとれた分析でしたが、ジャパントゥデイや毎日新聞がこの講演として大きく報じたのは、大使が靖国問題について、もし次期首相も靖国神社に参拝するのなら、この問題は引き続き韓国外交にとって頭痛の種となるだろうと述べた点でありました。また、昨年、島根県議会が「竹島の日」を制定したことなど、日本政府として外交的配慮が欠けているとも述べられました。

大使講演に対して、会場から靖国や竹島問題についての質問や、また埼玉県にある高麗（こま）神社について今日の韓国の人々の認識を問うものなどが出され、大使との間で活発なやりとりがありました。しかし、大使との対話は率直でしたが、きわめて友好的なものでした。韓国大使が本学で講演されたのは初めてのことで、近くて遠い国と言われることの多かった韓国と日本との関係を強化するにあたり、どのように日本側が考えたらよいかについて学ぶことの多い講演でした。

（司会：国際政治経済学部長 土山 實男）



青山スタンダード科目 清水義範氏講演会

2006年1月14日（土）、作家の清水義範さんを講師にお招きした講演会が、ガウチャー記念礼拝堂で開催されました。この講演会は、青山スタンダード科目のフレッシューズ・セミナー『読書の喜びを見出すためのゼミ—食わず嫌いを克服しよう—』の公開授業として、また、本学と読売新聞社「21世紀活字文化プロジェクト」活字文化推進会議とのタイアップによる『読書教養講座』として一般に公開された授業として開講されたものです。

講師を務めた清水さんは、『蕎麦ときしめん』『バードケージ』『国語入試問題必勝法』など数々の作品の著者であり、パステイッシュ（文体模写）の第一人者としても有名な人気作家。多くのファンから支持されており、この日もあいにくの空模様にもかかわらず、500名近い聴講者が会場に詰めかけ、話に耳を傾けていました。



作家 清水義範氏

「パロディで文学はつながっている」と題された講演は、古今東西の作品・作家を例に挙げ、文学におけるパロディの持つ意味を論じる内容で、世界の文学を俯瞰するスケールの大きさが感じられました。また、テンポの良い展開と軽妙な語り口に聴講者はすっかり魅了された様子でした。

受講した本学の学生たちは、事前の授業で清水さんの著書に触れていたこともあり、ただ講演を聴いているのではなく、講演を通して清水さんとの心の対話を楽しんでいるようにも見えました。著者を間近に見て、ナマの声に触れる絶好の機会になったようです。

講演後には、ゼミを担当する国際政治経済学部嶋田順好教授と清水さんの対談も行われ、「ある作品を読み、興味を持ったなら、時代をさかのぼって、その前に書かれた作品や、その作家が影響を受けた作品などを手にしてみると、読書の楽しみがより広がっていくでしょう」とのアドバイスもありました。

当日の学生の反応には、嶋田教授も驚いたようで、「この授業は、“本の虫”と言われるような人ではなく、文学部から理工学部までの“本を読もうと思っている人”を対象としており、講演の内容は少し難しいのではないかと考えていました。しかし、ポジティブに受け止めている点など、その効果は大きいと感じています」と語っていました。



青学発、日本初、「eラーニング専門家育成プログラム」4月開講

総合研究所「eラーニング人材育成研究センター(eLPCO)」は、文部科学省 平成17年度現代的教育ニーズ取組支援プログラムに採択された「eラーニング専門家育成プログラム」の配信を今年4月から始めます。本プログラムのカリキュラムは、26科目からなり、eラーニング専門家総合試験合格者には、eLPCOよりeラーニング専門家認定証を発行します。対象者は、青山学院大学の第2部を含む全学部3・4年生と大学院生で、5職種のeラーニング専門家から、自分に最適な専門家カリキュラムを選択できます。今年度新規に開講する科目は、eラーニングについての基礎知識・スキルを身につけることを目指す入門講義3科目を含む6科目で、授業形態は、教室での対面とVOD (Video on Demand) 教材を利用した自己学習を組み合わせています。自分のペースで、eラーニングを利用して、認定証取得を目指して学習できます。

入門講義科目の『eLPCO_eラーニング総論』では、企業内教育や高等教育等の教育現場にeラーニングを取り入れる意義から、eラーニングの特徴的な授業形態、人材やビジネスについて、eラーニングの全

体像を網羅する形で体系的に学習します。

『eLPCO_インストラクショナルデザイン総論』では、eラーニング導入の成功のキーである、教育を効果的にデザインするインストラクショナルデザイン(ID)について、その必要性やIDプロセスについて学習します。IDには、十分なニーズ分析や設計、開発、実施、評価のフェーズがあり、これらすべてを網羅した科目です。

また、『eLPCO_教育システムのためのITファンダメンタル』では、eラーニングを含むITを活用した授業を開発・実施するためには、さまざまなITに関する知識・スキルが求められると同時に、eラーニング実施のためには、学習管理システム(LMS)などのeラーニングシステムの活用が不可欠となってきています。そこで、最低限必要なITに関する知識・スキルについて学習します。

なお、学部生対象のeラーニング専門家育成プログラムは、青学発、日本初の試みとなります。4月にeLPCOによる学生向け合同説明会を下記の要領で行いますので、興味をもたれた方は是非ご参加ください。

コース受講のための合同説明会

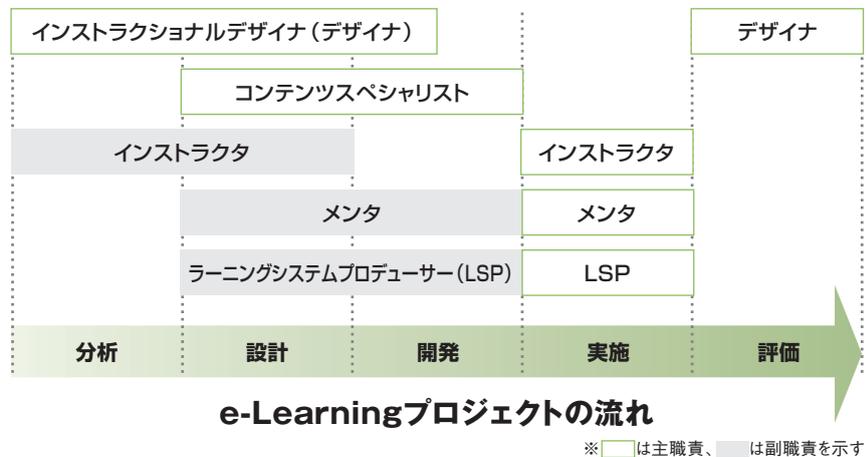
皆さんに適切な学習プランを立て、学習に取り組んでいただくため、本プログラムの学習コースを受けるには合同説明会に参加していただく必要があります。

合同説明会は下記の要領で実施します。本プログラムに興味を持たれた方はいずれかの説明会に必ずお越し下さい。

日時: 4/3(月) 19:45~20:45
4/5(水) 14:00~15:00
4/6(木) 15:00~16:00
4/7(金) 16:00~17:00

集合場所: 総合研究所ビル(14号館)11F
第19会議室

協働する5種類のeラーニング専門家



機械創造工学科 大石 進教授らが 2005年度(社)精密工学会 沼田記念論文賞を受賞

理工学部機械創造工学科 大石 進教授と松崎 靖氏(株式会社アイ・ティ・フロンティア 2002年3月理工学研究科博士前期課程修了)が、社団法人精密工学会より2005年度精密工学会沼田記念論文賞を受賞しました。

受賞対象論文は、「空気静圧ジャーナル軸受における空気膜温度と熱配分割合」。

精密工学会沼田記念論文賞は、計測、加工・制御の分野で独創性のある論文を公表した著者を対象とし、その努力と精神に報いるとともに、旺盛な研究意欲を高揚させることを目的として年に一度贈呈されるもので、3月16日(木)に東京理科大学にて精密工学会春季大会総会において贈賞式が行われました。

酒井泰二さん(理院後3)が 電気学会C部門 優秀論文発表賞を受賞

1月20日(金)に行われた電気学会C部門運営委員会にて、理工学研究科電気電子工学専攻博士後期課程の酒井泰二さん(橋本修研究室)が、平成17年度電気学会C部門優秀論文発表賞を受賞しました。

受賞対象論文は、「ミリ波帯における自由空間法を用いた高損失誘電体の異方性テンソル測定と電波吸収体への応用」。

電気学会C部門優秀論文発表賞は、1年間にわたって発表された論文の中で特に優秀な論文に対して贈呈されるもので、9月に早稲田大学で開催される平成18年電気学会C部門大会において授賞式が行われます。

2006年度学年初頭行事一覧

青山キャンパス

【文学部心理学科】4月1日(土)新2年生(各学年とも留年者を含む)

学部・学科	時間	場所	行事
文学部 心理学科(昼間主)	10:00	922教室	プレースメント・テスト
文学部 心理学科(夜間主)	14:30	922教室	

【昼間部】4月5日(水)新4年生 4月6日(木)新3年生 4月3日(月)新2年生(文学部心理学科(夜間主)のみ)(各学年とも留年者を含む)

学部・学科	書類配布	場所	履修ガイダンス	場所	学生証更新	健康診断(7号館2階音楽室)
文学部 教育学科	12:30	ガウチャー 記念礼拝堂	13:00	1123教室	4月5日(水)、6日(木)、7日(金) 9:30~11:30 13:00~15:30 1号館2階または2号館2階 所要時間:約30分(混雑時)	4月5日(水)、6日(木)、 7日(金)、8日(土) 9:00~11:00 13:00~15:00 17:00~19:00
文学部 英米文学科	10:30		11:00	930教室(新4年生) 910教室(新3年生)		
文学部 フランス文学科	12:30		13:00	922教室		
文学部 日本文学科	10:30		11:00	1173教室		
文学部 史学科	12:30		13:00	920教室		
文学部 心理学科(昼間主)	12:30		1143教室	13:00		
経済学部	9:15	9号館1階	9:45	910教室		
法学部	9:15	4号館1階	9:45	420教室		
経営学部	12:45	9号館1階	13:15	910教室		
国際政治経済学部	12:45	6号館1階	13:15	621教室		
文学部 心理学科(夜間主)	17:30	1143教室	18:30	1143教室	第二部と同じ	

【第二部(夜間部)】4月3日(月)新4年生 4月5日(水)新3年生 4月6日(木)新2年生(各学年とも留年者を含む)

学部・学科	書類配布	場所	履修ガイダンス	場所	学生証更新(1号館2階)	健康診断(7号館2階音楽室)
文学部第二部 教育学科	17:30	7号館1階 学生ロビー	18:30	1135教室	4月5日(水)、6日(木)、7日(金) 16:30~19:30 所要時間:約30分(混雑時)	4月5日(水)、6日(木)、7日(金)、8日(土) 9:00~11:00 13:00~15:00 17:00~19:00
文学部第二部 英米文学科				1134教室		
経済学部第二部				621教室		
経営学部第二部				930教室		

●教務課からのお知らせ

※学年初頭の各行事および開始時間は上記のとおりです。各自、あらかじめ計画して、指定の日時に出席してください。

※履修ガイダンスの所要時間は30分~60分程度です。

※その他の行事については、書類配布時に配布される『学年初頭行事』を参照してください。

※2006年度の編入学・転部・転学部・転学科生は「2006年度学年初頭行事一覧(編入学・転部生・転学部生・転学科生)」と「学年初頭行事」を参照してください。

●学生部からのお知らせ(学生証更新について)

※学生証裏面の在籍確認シールは、毎年4月に更新となります。新しい在籍確認シールの交付を受け、現住所、大学から自宅までの通学区間をボールペンで記入後、各自で貼り直してください。なお、更新時に学生証を紛失している場合は、あらかじめ学生部厚生課にて再交付の手続きを済ませてください。

※大学院生(青山キャンパス)は、大学院事務室掲示板を参照してください。

相模原キャンパス

4月1日(土)新2年生(文・経営)／新3・4年生(理工) ☆は学生番号を表す

学部・学科	書類配布	場所	履修ガイダンス	場所	学生証更新	健康診断(D棟)
文学部2年生 フランス文学科	11:30	E棟 1階廊下	12:00	E104	12:00~15:00 更新場所:F307・F308	4月1日(土)、3日(月) 9:00~10:30 13:30~16:30
文学部2年生 教育学科	11:30		12:00	E302		
文学部2年生 日本文学科	11:30		12:00	E303		
経営学部2年生	10:00		10:30	E101(☆14105001~14105330) E102(☆14105331~最終番号および2004年度以前入学者)		
理工学部3年生	9:30		10:00	E201(物理・数理、化学・生命科学、機械創造) E202(電気、経シス、情テク)		
理工学部4年生	12:00		12:30	E201(物理、化学、機械創造) E202(電気、経シス、情テク)		

4月3日(月)新2年生(文・経済・法・国際・理工)／大学院(理工) ☆は学生番号を表す

学部・学科	書類配布	場所	履修ガイダンス	場所	学生証更新	健康診断(D棟)
文学部2年生 英米文学科	10:00	E棟 1階廊下	10:30	E101	12:00~15:00 (ただし、理工学研究科1年生は 学生証の交付になります。) 更新場所:F307・F308	4月5日(水)、6日(木) 9:00~10:30 13:30~16:30
文学部2年生 史学科	13:30		14:00	E204		
文学部2年生 心理学科(昼間主)注1)	13:30		14:00	E307		
経済学部2年生	13:00		13:30	E101(☆12105001~12105330) E102(☆12105331~最終番号および2004年度以前入学者)		
法学部2年生	14:00		14:30	E201(☆13105001~13105300) E202(☆13105301~最終番号および2004年度以前入学者)		
国際政治経済学部2年生	10:30		11:00	E301		
理工学部2年生	10:30		11:00	E201(電気、経シス、情テク) E202(物理・数理、化学・生命科学、機械創造)		
理工学研究科	12:30		13:00	E301		

注1) 文学部心理学科(昼間主)新2年生は、4月1日(土)青山キャンパスにおいてプレースメント・テストが行われます。

4月5日(水)文学部1年次留年生

学部・学科	書類配布	場所	履修ガイダンス注2)	場所	学生証更新	健康診断(D棟)
英米文学科	10:00	E棟 1階廊下	10:30	E101	4月5日(水)以降、 窓口事務取扱時間内に、 学生生活グループ(B棟1階)で 行います。	4月1日(土)、3日(月) 9:00~10:30 13:30~16:30
史学科	10:00		10:30	E205		
心理学科(昼間主)	10:00		10:30	E206		
教育学科	12:00		12:30	E203		
フランス文学科	12:00		12:30	E104		
日本文学科	12:00		12:30	E103		

注2) 履修ガイダンス開始前に同じ教室で「履修登録資料」の配付があります。

※学年初頭の各行事および開始時間は上記のとおりです。各自あらかじめ計画して、指定の日時に出席してください。

※その他の行事については、書類配布時に配布される『学年初頭行事』を参照してください。

※履修ガイダンスの所要時間は45分~60分位です。

●保健管理センターからのお知らせ(健康診断について)(受診の義務:青山学院大学学生共通規則第9条)

※学年等により検査項目が異なります。

注意1:視力検査のため、メガネ、コンタクト使用者は必ず持参してください。

注意2:女子はレントゲン検査のために、無地に近いTシャツを着用もしくは持参してください。

注意3:健康診断を受診できなかった場合は、外部診療所へ行き自費で受診することになります。依頼書等がセンター窓口にあるので取りに来てください。健康診断未受診の場合、健康診断証明書は発行できません。(就職用・教育実習・介護等体験・奨学金・体育集中講義等に必要です。)

注意4:4年生は、受診前日までに検尿容器を7号館1階保健管理センターまで取りに来て、健診受診時に採尿済み容器を持参してください。

※学生健康診断について何か質問のある方は、直接保健管理センター窓口もしくは03-3409-7896にて確認してください。

※健康診断の詳細は、学部掲示板または『学年初頭行事』を参照してください。

※2年次編入学・転学部・転学科生も上記行事に参加してください。なお、健康診断は4月5日・6日のいずれかで受診してください。

※健康診断を未受診の場合は外部(自費で約4000円)で受診することになり、証明書などの発行はできません。

卒業生へのメッセージ



今春、卒業する皆さんへ
校友会会長 安藤 孝四郎

今春、本学を卒業する学部生・研究科生の皆さんに心からお祝いを申し上げます。

青山学院大学の卒業生は、約17万人を超えるまでになりました。今日、大学の社会的評価は、卒業生の社会における活動によってなされるといわれています。

これから巣立っていく皆さんの活躍が大いに期待されることです。

さて、卒業する皆さんにはもう一つの世界があります。それは「青山学院校友会」に参加するということです。青山学院の卒業生は全員、正会員として校友会に迎えられます。

設立113年の歴史をもつ「青山学院校友会」は、全国の都道府県や主要都市に「支部」があり、その組織は海外にも広がっています。また学部・学科には、それぞれ「学部同窓会」や「学科同窓会」が結成されているので、これらに積極的に参加されるようお勧めします。毎年9月23日に青山キャンパスで開催される大学同窓祭（ホーム・カミングデー）に是非参加してみてください。学生時代とはまた違う青学を体験できると思います。

校友会は校友（卒業生）相互の親睦と母校との絆をつなぐために、諸先輩が長い歴史を経て作り上げて来た組織です。効率優先の競争社会にあって、キリスト教主義による教育を標榜する建学の精神は校友会にあって正しく受け継がれております。諸先輩との交流は皆さんの人生を必ず有意義なものにしてくれることと思います。

青山学院校友会センター 校友センター窓口案内

「青山学院校友会センター」は卒業生と母校青山学院とを結ぶ窓口です。センターでは、同窓会、校友会の地方支部および海外支部、各種OB会、クラス会等の紹介・取次をはじめ、「青山学院維持協力会」の入会受付、「青山学報」定期購読の申込受付、校友会集会所利用の申込受付、さらに校友向け情報誌「AOGAKU Chimes」の発行・発送など、さまざまな活動を展開。また、卒業生全員が会員となる「青山学院校友会」の本部事務も担当しています。これらの活動には卒業生の基本情報が不可欠です。個人情報の管理には最大限の注意を払っておりますので、住所・氏名等の変更がありましたら、必ず校友会センターまでご連絡ください。

「AOGAKU Chimes」(あおかく チャイムズ)について

青山学院卒業生全員を対象に情報誌「AOGAKU Chimes」を年1回発行しています。青山学院の情報を全卒業生に等しく伝えることと、積極的な情報発信を目的としております。最新号の第6号では、青山キャンパスの再開により、21世紀型の総合学園を目指す、新たな歩みを「生まれ変わる青山学院」として特集。そのほか卒業生や教員へのインタビューや「青学オリジナルグッズ」など多彩な誌面作りを行っています。



発行は青山学院と青山学院校友会が共同で行っています。今後さらに誌面を充実させるためにも、卒業生の皆様のご感想・ご意見をお寄せください。

ホームページもご覧ください。 <http://www.alumni-aogaku.jp/>



卒業後の連絡先一覧

03-3409-8111 (代表・青山キャンパス)
042-759-6000 (代表・相模原キャンパス)

大学ホームページ
<http://www.aoyama.ac.jp>

	担当事務局	お問い合わせ先	備考
卒業・修了、成績証明書の交付	学務部教務課	03-3409-7830	人文・社会科学系学部対象 ※第二部(夜間部)を含む
	学生支援ユニット学務グループ(※)	042-759-6003	理工学部・理工学研究科対象
	大学院事務局	03-3409-7831	文学・経済学・法学・経営学・国際政治経済学研究科対象
	専門職大学院事務局	03-3409-8025	国際マネジメント研究科・法務研究科対象
科目等履修生案内	学務部教務課	03-3409-8047	人文・社会科学系学部対象 ※第二部(夜間部)を含む
	学生支援ユニット学務グループ(※)	042-759-6003	理工学部・理工学研究科対象
	学務部教職課程課	03-3409-9634	
	学生支援ユニット学務グループ(※) (教職課程担当)	042-759-6032	教職課程対象
科目履修生案内	大学院事務局	03-3409-7831	文学・経済学・法学・経営学・国際政治経済学研究科対象
	専門職大学院事務局	03-3409-8025	法務研究科・会計プロフェッション研究科対象
基礎資格および単位修得証明書の交付	学務部教職課程課	03-3409-9634	
	学生支援ユニット学務グループ(※) (教職課程担当)	042-759-6032	免許状授与証明書は、教育庁へお問い合わせください。
公開講座案内	庶務部庶務課(公開講座担当)	03-3409-7955	3月上旬より「2005公開講座 GUIDE BOOK」を配布予定です。
図書館の利用	図書部運用課閲覧係	03-3409-7858	卒業生の図書資料の貸出には、利用カードの申請が必要です。
	教育・学習支援ユニット図書グループ(※)	042-759-6027	http://www.agulin.aoyama.ac.jp
大学院案内	大学院事務局	03-3409-7831	文学・経済学・法学・経営学・国際政治経済学研究科対象
	学生支援ユニット学務グループ(※)	042-759-6033	理工学研究科対象
専門職大学院案内	専門職大学院事務局	03-3409-8025	国際マネジメント研究科・法務研究科・会計プロフェッション研究科対象
キリスト教に関する相談(教会紹介など)	宗教センター(ウェスレー・ホール1F)	03-3409-6537	
住所・氏名変更連絡先 「青山学報」定期購読の受付 「青山学院維持協力会」の入会受付 校友会支部連絡先紹介 校友会集会所利用の申込受付	青山学院校友会センター 青山学院校友会本部 (アイビーホール青学会館2F)	03-3409-6645 03-3409-9773 FAX 03-5485-3616	校友会ホームページ http://www.alumni-aogaku.jp/ 校友センターホームページ http://www.aoyamagakuin.jp/center/index.html E-mail agkoyu@jm.aoyama.ac.jp alumni@jm.aoyama.ac.jp
	資料センター	03-3409-6742	青山学院史の資料閲覧希望の場合は、前週土曜日までに連絡してください。 http://www.aoyamagakuin.jp/mcenter/
	募金室(法人本部3F)	03-3409-6208 FAX 03-3486-4712	冠奨学金の申込受付 遺贈による寄付相談も承ります。
	大学同窓祭	大学同窓祭実行委員会事務局 (ウェスレー・ホール3F)	TEL・FAX 共通 03-3409-8990(直通) ※月・水・金のみ
婚礼・会合施設	ブライダルサロン (アイビーホール青学会館内)	03-3409-8181(代表)	懇親会・同窓会・クラス会・OB会・アドバル・セミでの会合などにご利用ください。校友には、割引特典があります。 http://www.aogaku-kaikan.co.jp

(※)相模原キャンパス

●AGUニュースのバックナンバーは、大学ホームページでご覧になれます。

2006年度 首都圏父母懇談会

本学では、大学後援会事業の一環として、大学の近況をご父母の皆様にお知らせするとともに、ご子女の大学生活等についてのご相談やご意見をうかがい、それを大学運営に反映させることを目的に父母懇談会を実施しています。

首都圏（東京都・神奈川県・千葉県・埼玉県）在住の2・3年生のご父母を対象とした父母懇談会の日程は、右表を予定しています。対象の方には4月下旬以降に改めてご案内いたします。また、地区父母懇談会の日程は次号でお知らせします。

【お問い合わせ先】 庶務部庶務課（父母懇談会担当） TEL. 03-3409-8568

東京都・神奈川県・千葉県・埼玉県にお住まいのご父母を対象

対象学部・学年	開催日
法学部 2・3年生	5 / 20 (土)
国際政治経済学部 2・3年生	5 / 27 (土)
経営学部 / 経営学部第二部 2・3年生	6 / 3 (土)
経済学部 / 経済学部第二部 2・3年生	6 / 10 (土)
文学部 / 文学部第二部 2・3年生	6 / 17 (土)
理工学部 2・3年生	10 / 8 (日)

※日程が変更になる場合があります。

青山学院大学教育ローン

【特徴】

1. 一般の教育ローンより低金利で融資を受けることができます。
2. 担保・保証人は不要です（学生本人が融資を受ける場合、銀行によっては保証人が必要になります）。
3. 在学期間中の元金返済据置の制度もあります（在学中は利息のみを支払い、卒業後、元利を併せて返済することができます）。
4. 原則として、融資された学費等は本学の学費振込用紙によって直接青山学院に振込まれます。
5. 既に学費を納入した場合でも、一定期間内であれば融資を受けることができます。

【利用資格】

本学学部生・院生の保護者または学生本人で銀行の定めた資格を有する必要があります。

【必要書類】

1. 資金用途確認資料…学費納付書等
2. 本人確認資料………印鑑証明書、住民票、運転免許証、健康保険証の写し等のいずれか一通
3. 所得確認資料………所得証明書、源泉徴収票等のいずれか一通

【注意事項】

1. 契約はすべて銀行と融資を受ける者が行います。
2. 融資は学費（授業料他）等の教育資金に限ります。
3. 銀行によって、融資条件・金利等の契約内容に若干の差がありますので、契約する銀行に照会してください。
4. 年間学費相当分の借入れを希望する場合は、前期分学費納付用紙・後期分学費納付用紙が必要です。この場合、青山キャンパス所属の学部生は学生課、院生は大学院事務室、専門職大学院生は専門職大学院事務室、相模原キャンパスの学部生・院生は学生生活グループへ申し出てください。必要な学費振込用紙を発送いたします。

【提携銀行】

三井住友銀行	渋谷支店お客様相談課	TEL 03-3463-0102
みずほ銀行	渋谷中央支店ローン担当係	TEL 03-3462-0315
りそな銀行	渋谷支店ローン担当係	TEL 03-3498-3211
三菱東京UFJ銀行	青山支店お客様相談課	TEL 03-3409-3211
横浜銀行	渋谷支店ローン担当係	TEL 03-3463-2151

2005年度退職専任教員

2006年3月末日をもって退職される専任教員は次の方々です。（○印は定年退職される教員）

兼田 美穂	文学部体育実技助手
小谷真理子	文学部英米文学科助教授
JACQUES, M.	文学部フランス文学科助教授
○熊谷 彰矩	経済学部経済学科教授
○寺谷 弘壬	経営学部教授
○伊藤 憲一	国際政治経済学部国際政治学科教授
○持丸 正義	理工学部電気電子工学科教授
富山 健	理工学部情報テクノロジー学科教授
○有田 浩三	理工学部物理・数理学科理工学部講師
○木村 勇	理工学部物理・数理学科理工学部講師
○大澤 直	理工学部機械創造工学科理工学部講師
上野 貴裕	理工学部物理・数理学科助手
毛塚 智子	理工学部化学・生命科学科助手
佐藤 秀明	理工学部経営システム工学科助手
中邨 良樹	理工学部経営システム工学科助手
伊東 由佳	理工学部情報テクノロジー学科助手

その他の月日をもって退職された教員

武末 出美	理工学部電気電子工学科助手（2005.8.31退職）
井手 正介	国際マネジメント研究科国際マネジメント専攻教授（2005.8.31退職）
牧 紀子	情報科学研究センター 助手（2005.9.30退職）
平松 紘	法学部法学科教授（2005.10.12逝去）
IAQUINTO, A. L.	国際マネジメント研究科国際マネジメント専攻教授（2005.10.31退職）
佐野 浩樹	理工学部化学・生命科学科助手（2005.12.31退職）
岸 忍	理工学部化学・生命科学科助手（2006.2.28退職）

2006年度 公開講座・公開講演会

お問い合わせ先 青山学院大学 庶務部庶務課企画運営係(公開講座担当)
〒150-8366 東京都渋谷区渋谷4-4-25 TEL. 03-3409-7955(直通)
本学公開講座ホームページ <http://www.aoyama.ac.jp/extension/index.html>

本学では、大学での教育及び研究の成果を広く社会に開放し、社会人の教養を高め、文化の向上に資することを目的に、地域社会への貢献という使命から1990年より公開講座を開講しています。

2006年度は青山キャンパスにて4講座、相模原キャンパスにて4講座の計8講座と、首都圏以外で公開講演会を開催する予定です。

本学公開講座では年齢や資格による受講の制限はなく、どなたでも受講いただけます。(但し、市民大学は除く。)各講座の内容・申込方法などの詳細を掲載した「2006公開講座GUIDE BOOK」をご希望の方は、上記までお問い合わせください。

青山キャンパス開講(土曜日 14:30~16:00)

●渋谷区教育委員会共催講座・女性と平和

- 5月13日 キリスト教史の中の女性と平和
青山学院女子短期大学教授 中井 章子
- 5月20日 平塚らいてうと平和思想
青山学院女子短期大学助教授 鈴木 直子
- 5月27日 国際政治とジェンダー:国連平和活動等を例に
青山学院大学国際政治経済学部助教授 青井 千由紀
- 6月3日 スリランカの女性達:民族抗争から和解へ、津波被災から復興へ
青山学院女子短期大学兼任講師・拓殖大学助教授 岡田 則子
- 6月10日 平和の文化と国連
国際連合広報センター所長 野村 彰男

●近代キリスト者の信仰と倫理

- 6月17日 新島襄—キリスト教に基づく徳育をもとめて—
青山学院大学元教授 大曾根 良衛
- 6月24日 河井道の生涯—光りに歩んだ人—
エッセイスト 木村 恵子
- 7月1日 有島武郎とキリスト教—キリスト教倫理・歓喜と苦悩の果てに—
青山学院大学名誉教授 小玉 晃一
- 7月8日 高倉徳太郎—「福音的キリスト教」へのこだわり—
青山学院大学非常勤講師・日本基督教団信濃町教会牧師 南 吉衛
- 7月15日 塚本虎二:信仰への扉
青山学院大学名誉教授 小原 信

●渋谷区教育委員会共催講座・世界の中の日本—日本と世界を結んだ人たち

- 10月7日 大黒屋光太夫—世界に通用した江戸時代の日本人—
青山学院大学国際政治経済学部教授 袴田 茂樹
- 10月14日 新渡戸稲造—太平洋の架け橋—
青山学院大学特別招聘教授・国際交流基金理事長 小倉 和夫
- 10月21日 岡倉天心—日本の文化を世界に伝える—
青山学院大学国際政治経済学部教授 本名 信行
- 11月4日 福田赳夫—日本と東南アジアの連帯を求めて—
青山学院大学国際政治経済学部教授 菊池 努
- 11月11日 大平正芳—日中国交回復の立役者—
青山学院大学国際政治経済学部教授 中兼 和津次

●企業人の心

- 11月18日 日本的経営の再考—資源としての働くひとの心—
青山学院大学経営学部助教授 山下 勝
- 11月25日 勤労者のキャリア—開発・発達の視点から—
青山学院大学経営学部教授 山本 寛
- 12月2日 第一印象効果—人材選抜を成功させる—
青山学院大学経営学部教授 林 伸二
- 12月9日 リーダーの心のあり方—人間力を育てる—
高島(株)海外戦略担当ディレクター 内富 秀明
- 12月16日 企業人の心—幸せに働くには—
青山学院大学法学部教授 石井 光

相模原キャンパス開講(土曜日 14:30~16:00)

●中世イングランドの言語と文化

- 5月13日 写本から活字印刷へ
青山学院大学文学部教授 武内 信一
- 5月20日 アーサー王伝説の受容
青山学院大学文学部教授 佐藤 紀子
- 5月27日 中世の文学作品と読者
関東学院大学文学部教授 多ヶ谷 有子
- 6月3日 中世の演劇
武蔵野大学文学部教授 末松 良道
- 6月10日 英語翻訳の歴史
青山学院大学文学部教授 山内 一芳

●紛争と法—国際紛争と人道法・人権法

- 6月17日 人はなぜ戦うのか?—法のパラドックス—
青山学院大学法学部教授 住吉 雅美
- 6月24日 人道法の形成—国際人道法と国際赤十字—
青山学院大学法学部非常勤講師・日本赤十字看護大学教授 小池 政行
- 7月1日 被害者へのまなざし—戦争被害者の個人賠償請求は可能か—
弁護士 大谷 美紀子
- 7月8日 国際刑事裁判所の試み
—戦争犯罪・人道に対する罪・ジェノサイドと国際刑事裁判所—
青山学院大学法学部助教授 安藤 泰子
- 7月15日 紛争と法の現在—人類の岐路をどう見透すか—
青山学院大学大学院法務研究科教授 新倉 修

●キリスト教と人間—人物で学ぶキリスト教史—

- 10月14日 アウグスチヌス—自己探求者にして歴史哲学の巨人—
青山学院大学 大学宗教部長・経済学部教授 東方 敬信
- 10月21日 ルター—宗教改革の端緒を開いた人—
青山学院大学 大学宗教主任・法学部教授 廣瀬 久允
- 10月28日 K・バルト—現代プロテスタント神学の巨人—
青山学院大学 大学宗教主任・文学部助教授 伊藤 悟
- 11月4日 内村鑑三—二つのJに仕えたキリスト者—
青山学院大学 大学宗教主任・国際政治経済学部教授 嶋田 順好
- 11月11日 ヨハネ・パウロ二世—命の擁護者—
青山学院大学 大学宗教主任・文学部専任講師 シュー土戸ポール

●相模原市教育委員会・座間市教育委員会共催講座(市民大学)

脳と薬—薬物依存の実態

- 11月18日 薬物依存と犯罪
青山学院大学法学部教授 西澤 宗英
- 11月25日 アルコール依存症の診断と治療
北里大学医学部精神科研究員 澤山 透
- 12月2日 脳に作用する薬
青山学院大学理工学部教授 田代 朋子
- 12月9日 麻薬と脳内麻薬
青山学院大学理工学部教授 田代 朋子
- 12月16日 毒・薬・食物
青山学院大学理工学部非常勤講師・安全学研究所 辛島 恵美子

※講座テーマ等に変更が生じる場合があります。2006年1月31日時点の情報です。

テーマ別科目 言葉の技能 「日本学B」

堀内 正博

国際マネジメント研究科 教授

その国の文化を知ること、文化の普及は相互理解の始まりであり、最も重要なことのひとつです。青山スタンダード科目「日本学B」は交換留学生・外国人留学生だけでなく、日本人である在学学生も履修できる、日本の代表的な伝統文化（華道、書道、茶道等）を実演・体験を交えて学ぶことのできる講義です。



留学生と日本人学生がともに日本文化を学ぶことは、国際文化交流の実践といえると思います。

青山スタンダード科目「日本学B」は、世界各国への訪問・講演経験を有する日本の伝統文化の専門家に、実演を含めた成り立ちや技術などを紹介していただき、その理解を深めることを目的としています。また、実演・体験を交えた講義を受けることで、それぞれの専門家の方々が感じている文化交流に関する問題意識を育成することも大きな課題としています。

日本人の在学学生も、単位認定外ではありますが履修者がおり、さまざまな国からの留学生とともに学べるうえ、希少な経験が得られるよい機会として積極的に参加しています。以下いくつかの講義を紹介します。

囲碁のクラスでは、青葉かおり四段（日本棋院）とボランティアの方々のご協力を得て実施し、囲碁の歴史からルールの説明をしていただいた後、9路盤という、小さめの盤で実



践を行いました。チェスと並んで起源とされる中国、韓国をはじめ、アメリカ、ドイツ、ロシアなど世界に愛好者を持つ囲碁は、東京大学でも正規の授業があるほどで、講義終盤にはみんな9路盤で碁が打てるようになるほどに上達しました。

●
車人形は、日本の在学学生のみなさんでも聞きなれないかもしれませんが、「ろくろ車」という、前に2個後ろに1個の車輪がついた箱型の車に腰掛けて、一人の人形遣いが一体の人形を操る特殊な人形芝居です。講義には東京都指定無形文化財でもある八王子車人形の五代目西川古柳氏にお越しいただき、その歴史や主な演目、人形の各部の構造など詳細な説明に加えて、海外での人形指導やワークショップでの経験などについての貴重なお話も伺うことができました。

●
2回連続で行ったお茶の講義では、煎茶花月菴流の先生方に、日常生活にかかすことができないお茶（煎茶）の美味しいいれ方から、お茶の歴史を人物や漢詩を交えて、さらに用語や道具を英語の対訳つきでご説明いた



きました。特に時間をかけて、一般教養としての、もてなす側とお客として呼ばれた側の双方のお作法も、実際に煎茶とお菓子をを用いた実践で教えていただきました。

●
身振り、喋りのみで幾人もの人物をただ一人が演じ、滑稽な物語や人情話、怪談などを表現する演芸であり、日本の伝統芸能である落語の講義では、三増紋之助氏に大小独楽を使った芸を、留学生との実践を交えて見せていただき、さらに2005年の5月に三遊亭楽太郎師匠に続き本学OBとして二人目の真打に昇進された三遊亭遊士郎師匠（92年英米文学科卒。落語芸術協会HP <http://www.geikyo.com/kaiin/profile/125.html>も御覧ください）には、お囃し、落語の技術や奥深さについて、面白く解説していただきました。



2006年度 大学入試センター試験利用入学試験、 一般入学試験志願者数

2006年度大学入試センター試験利用入学試験、一般入学試験は、昼間部・第二部(夜間部)すべての出願が終了しました。一般入学試験の志願者数は、昼間部34,264名、第二部(夜間部)2,424名、合計36,688名(昨年度37,066名)となり、本年度新規に経済学部、経営学部を加えて実施した大学入試センター利用入学試験の志願者は11,141名(昨年度4,037名)となりました。

なお、2006年度志願者数の詳細については、大学ホームページにて公開しています。



2006年度一般入学試験

2006年度オープンキャンパス等開催日程

※予約不要・入退場自由。

詳細については、決定次第、大学ホームページにて随時お知らせします。

オープンキャンパス(全学部対象) ※青山学院女子短期大学同日開催

7/16(日)	10:00~16:00	場所:相模原キャンパス
7/23(日)※	10:00~17:00	場所:青山キャンパス
9/17(日)※	11:00~16:00	場所:青山キャンパス

社会人のためのオープンキャンパス

7/29(土)	14:00~17:30	場所:青山キャンパス
---------	-------------	------------

本学への入学を希望する社会人等を対象に実施します。

高校1・2年生のための大学説明会

11/12(日)	10:30~16:00	場所:青山キャンパス
----------	-------------	------------

高校1・2年生の早期より、本学への進学を希望している高校生とその保護者を対象に大学説明会を行います。

News Index 2005.12~2006.1

2005年12月上旬~2006年1月中旬に大学ウェブサイトに掲載されたニュースの主なタイトルを掲載しています。

05年12月

- 本学陸上競技部 仲村一孝君が、東京箱根間往復大学駅伝競走に関東学連選抜の選手として出場
- 米津明生さん(理院後3)と加賀山浩司さん(理院前2)が日本非破壊検査協会新進賞を受賞
- 林雅仁さん(理院前2)が日本機械学会フェロー賞、坂上賢一(機械創造工学科)助手が優秀講演表彰を受賞
- 本学女子バレーボール部が全日本バレーボール大学女子選手権大会で優勝
- 本学女子バレーボール部が全日本バレーボール大学女子選手権大会決勝進出

06年1月

- 酒井泰二さん(理院後3)が電気学会C部門優秀論文発表賞を受賞決定
- 硬式野球部 藤野剛平君が平成17年度第38回日本学生野球協会表彰選手に選出
- 第2回神奈川産学チャレンジプログラムで理工学部のチームが「努力賞」受賞
- 理工学部 橋本修教授と神戸製鋼所が酸化鉄(スケール)を利用した電波吸収体を開発

大雪による被災地の 保証人の皆様へのお見舞い

この度の新潟県・長野県を中心とする大雪による災害に対しまして、報道等で拝承いたしておりますが、御地の保証人各位におかれまして、ご被害の少ないことを念じ、また今後の状況を念じつつ、お見舞い申し上げます。

2006年1月

青山学院大学 学長 武藤 元昭

アドバイザーグループ紹介 ⑤

「スペインについて語り合おう」〈大久保アド・グル〉

私のアド・グルのテーマは、スペインに関する話題をグループで語り合うこと。実際には、個別の学生の相談役(?)も務めさせてもらっています。活動は青山では毎週木曜日、相模原では毎週金曜日のそれぞれお昼休みに食事をしながら、お話ししています。また、

5月に新入生歓迎会、2月に卒業生追出しコンパを開催。いずれもスペイン料理店が私の自宅で行っています。今



アド・グル生、ゼミ生や院生らと実施したDr. Cardona講演会

年の青山祭ではタコス屋さんを出店しました。さらに、みんなでスペイン映画を見たり、鎌倉・逗子などへハイキングに出かけたり……自宅に学生を招待して食事会(Paella Party)を開催した時は、すっかり盛りあがって、2~3泊の合宿になってしまうこともよくありました。こうしたイベントすべてにOB&OGを招待しており、毎回30~40名の参加者があります。学生の皆さんには成績や出身学部など、本人の本質とは何も関係のないことを抜きに、真の意味での人間的交流を体験してもらいたいと思っています。



国際政治経済学部 大久保典子 教授

AGUニュースについて

青山学院大学では、大学広報誌「AGUニュース」を年5回(1月、3月、5月、7月、10月)発行し、在学生の保証人の方々に送付しています。また、在学生を対象としてキャンパス内AGUニュース専用スタンドにて配布しています。

- なお、「AGUニュース」を確実に保証人の方々へお届けするため、住所が変更になった場合は、住所変更の手続きをお取りください。

青山キャンパス→学生部厚生課
事務取扱窓口 相模原キャンパス→チューデントセンター・学生生活グループ